

水産試験場（鶴岡市）

海洋資源調査部

- 漁船漁業の生産性向上技術の開発研究
・大型クログロ漁獲実証事業 (H28~30)
・底魚類漁獲動向予測技術開発 (H26~30)
・底びき網漁業活性化対策調査 (H26~30)
○資源の持続的利用管理技術の研究開発
★イワガキ再生産産岩盤清掃実証事業 (H30~34)



最上丸による有害なサメの駆除試験

資源利用部

- 水産物の付加価値向上技術の開発
★科学的評価による庄内浜水産物の品質向上試験 (H30~34)
・脂質含有量簡易測定手法の実用化 (H28~30)

浅海増殖部

- 栽培漁業推進技術の研究開発
・トラフグ放流技術高度化研究 (H29~31)
・増養殖技術指導 (H27~31)
・サケ・サクラマス資源調査 (H27~36)
★サケ稚魚の回遊生態、成長・減耗に関する環境要因の解明 (H30~34)
・食用海藻利用促進と漁港内での藻類簡易増殖技術の開発 (H29~33)
○漁場環境の保全に関する研究
・生物モニタリング調査 (H27~36)



新たな食用海藻(フサイワツタ)

内水面水産試験場（米沢市）

生産開発部

- 養殖業の振興
★大型マス(異質全雄三倍体魚)の安定生産技術開発 (H30~34)
・地球温暖化に対応したコイ養殖期間短縮技術の開発 (H28~32)
★飼料用米を用いたコイの低コスト養殖技術の開発 (H30~34)
・増養殖技術指導による養殖技術の普及と生産性の向上 (H30~34)
★サケ稚魚移殖放流による銀毛資源造成技術の開発 (H30~34)



ニジサクラ(ニジマス♀×サクラマス♂)の異質全雄三倍体

○魚病対策業務

- ・養殖業における従来疾病に加えて、天然水域における魚病にも対応

資源調査部

- 水生生物の多様性の維持と重要資源の持続的利用技術の開発
・河川環境を総合的に利用したサクラマスの増殖手法の開発 (H26~30)
・アユ釣り漁場に適する河川環境の解明 (H29~33)
・内水面重要魚種(アユ、サクラマス)の資源動向及び河川環境モニタリング (H27~31)



サクラマスの産卵場造成

森林研究研修センター（寒河江市）

森林生態保全部

- 森林環境の維持・増進技術の開発
・海岸林の低コスト育成管理技術の開発 (H27~31)
・森林生態系保全モニタリング (H28~)
・荒廃森林モニタリング調査 (H29~)
・伐採地の立地環境に応じた目標林型設定技術の開発 (H28~32)
★ナラ類堅果の長期貯蔵技術の向上 (H30)
・成長の早いヤナギを利用した木質バイオマス圃場生産技術の開発(地球温暖化対応) (H27~31)
・森林へのタケ侵入防止に向けた調査 (H29~33)
・二ホンジカに関する現地調査 (H24~)
★カシノナガキクイムシの寒冷地への適応からナラ枯れ北方・高標高地への拡大を予測する (H30~31)
・ナラ枯れ予防剤に関する基礎試験 (H29~30)
・殺線虫剤によるマツクイムシ予防基礎試験 (H29~30)
・殺菌な被害をもたらす森林病虫獣害の調査 (H26~30)



伐採跡地



ワラビカバークロップ効果

○低コストで生産性の高い林業技術の開発

- ・優良種苗の安定供給と下刈省力化による一貫作業システムの体系化の開発 (H28~30)
★省力化再造林・育林技術の体系化 (H30~34)
★低コスト再造林実証事業 (H30~)
・山形県スギ林分収穫予測の精度向上に関する技術開発 (H26~30)

森林資源利用部

- 多様なニーズに対応する林木の開発
・マツノサイエンチュウ抵抗性育種 (H7~)
・革新的技術による無花粉スギ苗木生産の効率化・省力化と無花粉品種の拡大 (H29~31)
・耐雪性スギ系統にみられる特異的な年輪構造が根元曲がり抵抗性に及ぼす影響の解明 (H29~31)
・カラマツの種子生産とコンテナ育苗試験 (H29~33)



積雪環境を利用した無花粉スギ苗木生産試験

○自然力を活用した特用林産物生産技術

- ・キノコの新品種開発と品目転換に対応した生産技術の開発 (H29~33)
・地域再生を目指す国産漆の増産・利用技術の開発 (H28~30)
★漆生産のための低コスト育成技術の開発 (H30~32)

○県産木材利用拡大技術の開発

- ・県産広葉樹資源活用のための特質解明と新たな用途開発 (H29~31)
★里山資源の多用途化と循環利用技術の開発 (H30~32)

森林経営指導部

- 技術普及・人材育成・研修等

村山産地研究室（寒河江市）

○地域園芸産地技術開発・支援

- ・スナッフエンドウの抑制栽培技術の開発 (H29~31)
・地域園芸産地技術支援 (H29~)
りんご、おとうと、すいか、トマト、おかひじき、えだまめ、枝物花木、ストックを中心に技術支援を行う。



スナッフエンドウ

最上産地研究室（新庄市）

○野菜・山菜の栽培技術の開発

- ★最上型サトイモ大規模経営体育成のための栽培技術確立 (H30~32)
・次世代型施設におけるトマトの栽培技術実証 (H29~31)
・タラシ新品種「春かおり」の早期多収栽培技術の確立 (H29~32)
・市場ニーズの高い山菜オリジナル新品種開発 (H28~32)
・最上ニラの春~秋期生産拡大技術の確立 (H28~31)
・トマト土耕栽培の秋期安定生産技術の確立 (H28~31)



「春かおり」(2017品種登録)

○おとうと栽培技術の開発

- ★おとうとオリジナル新品種「山形C12号」の高品質安定生産技術の開発(H30~32)
・おとうと雪害回避技術の開発 (H28~30)
・最上地域に適合したおとうと超大玉生産技術の開発 (H28~30)



雪害に強い仕立て方

置賜産地研究室（南陽市）

○アスパラガス夏秋期収量向上技術の開発

- ・日射制御型自動灌水装置を利用した最適な施肥方法の確立 (H29~31)
・若茎残留度を指標とする茎葉管理技術の確立 (H29~31)
○薬用作物の国内生産の拡大に向けた技術の開発



日射制御型自動灌水装置を用いた技術確立

- ・積雪寒冷地における育苗技術、安定生産技術の開発 (H28~32)
○シウガの安定生産技術の開発 (H29~31)
○やまがた主力花き産地再生技術の開発

★アルストロメリアの夏秋出荷と環境制御による生産性向上技術の開発 (H30~32)

- ★ダリアの挿し芽苗を用いた6~12月出荷生産技術の開発 (H30~32)
○置賜地域の園芸産地技術支援
★夏秋野菜養液栽培後作に適した冬期有望品目の検討 (H30)
・地域に適したアルストロメリアの品種選定 (H30)



アルストロメリアの生産性向上技術の開発

庄内産地研究室（酒田市）

○いちごの新品種育成

- ★収量性が安定的に高く害抵抗性等の特性をもつ四季成りいちご品種の育成 (H30~34)

○日本一えだまめ食味産地形成技術の開発

- ・近赤外線分光分析による食味評価システムを活用した良食味栽培管理指標の策定 (H28~30)
○庄内砂丘の特性を生かした高品質・多収栽培体系の確立



ICT養液土耕栽培

- ・ICT養液土耕システムを活用したネットメロンとミニトマトの高品質・安定生産技術の開発 (H29~31)

○トルコぎょうの新たな栽培体系の確立

- ・主要品種に適応した定植時期や短日処理時期の解明、高温対策技術の開発 (H29~31)

○ジャイアント産地拡大のための高品質栽培実証

- ・水稲育苗ハウスを活用した高品質に向けた樹形の検討と実証及び高温対策技術の開発 (H29~33)



スタチ (9月収穫)

○温暖化に対応した果樹の適応性調査

- ・柑橘等における栽培可能な樹種のスクリーニング調査 (H27~31)